

会議録

会議の名称	平成23年度第2回 西東京市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成23年8月22日（月曜日） 14時00分から16時00分まで
開催場所	エコプラザ西東京講座室1・2
出席者	委員：山谷会長、一方井副会長、紺野委員、下田委員、三澤委員、石井委員、笠原委員、内藤委員、利光委員、斉藤委員、高橋委員、鹿島委員、小林委員、竹村委員（全14名） 事務局：坂本課長、岡本係長、都築主査、小暮主任、高橋係長、三村統括技能長
議題	一般廃棄物処理基本計画について
会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回西東京市廃棄物減量等推進審議会会議録 ・ 平成18・19・20年度 3事業実施決算（経費内訳） ・ 西東京市一般廃棄物処理基本計画の策定に係る減量目標・資源化目標の設定について ・ 一般廃棄物処理基本計画（素案抜粋）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>（開会）</p> <p>○高橋委員： 効果が上がってきているが、効果が出た要因について分析は行っているのか。経済効果（財政負担の削減）はどうか。</p> <p>○山谷会長： 3事業による相乗効果が出て、意識啓発が図られた。特に有料化の効果が大きい。具体的な経済効果については次回、事務局よりデータを示してもらおう。</p> <p>○高橋委員： 集団回収とは何を示すのか。</p> <p>○山谷会長： 市民団体（自治会、子供会等）が主体となって地域の市民とともに自主的に資源物を回収する仕組みである。自ら資源回収業者へ引き渡し、市から補助金をもらって実施する場合がある。</p>	

○高橋委員：

集合住宅で集団回収を実施しようとしたが住民が乗ってこなかった。

保管スペースを確保できない、資源物を出すのが恥ずかしいといった意識があるのではないか。

○一方井副会長：

自治会やそれに類するグループが集団回収を行っている。諸手続きがあり面倒な部分もあるが、うまく運用しているグループもある。集積所を活用して集めることも可能で、そんなに大きなスペースを必要とするものではない。

○高橋委員：

共同住宅でも集団回収を根づかせる施策はないか検討してほしい。

○山谷会長：

新聞販売店による自主回収もあり、それも利用しやすい。

○鹿島委員：

可燃ごみの水分の割合と経済状況との関係はどうなっているか。ごみ質の変化に傾向はあるのか。

○株式会社日本環境：

ごみ質分析結果からは経済状況との関係を明確にはできない。

財政負担の観点からは、紙ごみやプラごみが多くなるとごみのカロリーが高くなり、ごみ焼却施設の設計条件を超えたカロリーになると、施設に負荷がかかり、炉を痛めるため維持管理費や整備補修費が上がってくる。

可燃ごみの中には約40パーセントの水分を持っており、これを焼却するために燃料を使うことになっており、水分の削減は重要なテーマである。

○高橋委員：

ごみ質に季節変動はあるのか。

○株式会社日本環境：

夏場に水分が多くなる傾向はある。

○山谷会長：

柳泉園組合へ訪問した際、月に何日か補助燃料を使っていると聞いている。可燃物の水切りは重要と考える。

○鹿島委員：

乾ききってから捨てることが重要と考える。

○株式会社日本環境：

分別できるものを可能な限り分別している都市では、ごみの中に含まれる水分に注目しているケースが増えている。

○一方井副会長：

我家でもスイカの皮等、乾き切ってから排出するようにしている。

ごみの分別区分については、各市に任されているのか。各市で統一されたら良いと思う。エコセメントについては将来的に継続できるのか。

類似団体との比較表については何と比較して本市が優れているか、わかりやすくできないか。

○山谷会長：

分別区分については、自治法で市の事務となっている。国ではガイドラインを示し、一元化へ向けた取り組みをしている。

○事務局：

エコセメントは様々な土木資材に利用されており、利用先は限られてくるが、事業の継続性はある。

○鹿島委員：

エコセメント資材の再利用は可能か。

○山谷会長：

できなくはないが、現実的ではない。最終処分の際に副資材として使う用途等が考えられる。

○株式会社日本環境：

類似団体との比較については、市のデータを精査してから次回再度示したい。

○山谷会長：

課題について議論をお願いしたい。

○三澤委員：

減量化の効果が頭打ちになっているのではないか。またスピードも速すぎた。リバウンドが心配な時期である。事業経費が高い理由を示してほしい。

○株式会社日本環境：

事業経費については、精査して次回再度示したい。

○紺野委員：

リサイクル率の議論については30パーセント台であるとして考えて良いのか。

○株式会社日本環境：

環境省へ市が報告している実態調査に基づくデータは市の実績データに合っていない

い。

○山谷会長：

国へ出されているデータは、正確でない場合がある。都がチェックすべきであるが、それができていないことがある。

○鹿島委員：

これからは意識啓発、教育が重要になる。特に児童への教育。意識の共通化を考える上でインターネットから得られる情報に個人が対応しきれていないことも課題と考える。

○山谷会長：

アンケート結果については、ホームページに掲載されている。内容をチェックしておいてほしい。課題について議論をお願いしたい。

○三澤委員：

ごみを焼却する際に燃料を使っているが、プラスチックを抜いてしまうと補助燃料が必要となるのではないか。燃料としての視点からもプラスチックについても考慮すべきである。

○山谷会長：

柳泉園組合ではかつてプラスチックを埋立処分していた。特別区では助燃剤としてサーマルリサイクルしている。

○事務局：

柳泉園組合では、不燃ごみに含まれる硬質プラをRPF化し、軟質プラについては焼却処理している。

○紺野委員：

資源物の戸別収集をしてもらいたい。

日野市では資源物も戸別収集している。これにより資源物の盗難がみられない。都内で多いところでは約3割の量に相当する盗難の被害がある。

○一方井副会長：

全ての資源物について戸別収集するのか。

○紺野委員：

はい、そうです。布類に異物を入れて、排出されるケースも多く、戸別収集だと異物混入を目視でき品質の良いものが回収できる。計画の中に資源物の戸別収集を示してほしい。

○山谷会長：

コスト面（経費増）との関係がある。

○紺野委員：

資源回収業者の努力（経費削減）も必要である。

○利光委員：

リバウンド対策として、分別の広報が重要である。認知症の方等は、分別等、協力したくてもできない人も多い。保健、福祉の分野の担当とも連携して、分別等徹底できるようにしてほしい。外国人も多く、分別がわからないことがあり、外国人への広報を強化してほしい。ベッドタウン化しているので、転入者や若い方等へも十分な広報ができないか。

○山谷会長：

転入当初に広報が重要である。現状はどうなっているか。

○事務局：

転入手続時に窓口で必要な冊子を渡したり、相談にのっている。

○山谷会長：

住民票を出している人にはしっかり情報が伝わっている。

○鹿島委員：

引越しの際に挨拶がないなど等、お隣同士疎遠になっていることから、広報、啓発は必要である。

○小林委員：

中野から転入してきたが、窓口で必要な冊子など受け取らなかった。中野に住んでいた時には、ステーション方式で資源物回収をしていたが盗んでいく人が多かった。

○高橋委員：

当番制で個々のお宅の前に資源物を出すようになっているが資源物の盗難はない。

○山谷会長：

資源物についての戸別収集への切り替えについて各委員どう考えるか。

○利光委員：

資源物の戸別収集に切り替えた場合、どの程度お金がかかるか。

○紺野委員：

1人で集めていたものが、2人必要になる等経費増になる要因はあるが、回収が遅れることはない。資源回収量が増え、売却益が得られれば経費もまかなえる。

○石井委員：

資源ごみも有料化になるということか。

○山谷会長：

そうではない。資源物を戸別収集に切り替えることについて話している。

○石井委員：

回収コストと売却益では相殺されることはないのでは。

○紺野委員：

相殺されるとはかぎらない。

○山谷会長：

経費を考えなければ資源の品質が良くなる等戸別収集は有効な方法である。

○紺野委員：

資源化率は上がるが、ごみ排出量も増加するという矛盾はある。

盗まれている量は全体の約3割に相当するものと予測される。

八王子に引き取りの拠点があり、これを排除しなければならない。

○一方井副会長：

ごみ減量推進員の活動をしていた際、資源物の中に異物が入っていたことがある。警告を書いて貼りつけ、啓発のため回収しなかったことがある。

3事業により急に効果が出た反動があるのではないか。

○山谷会長：

資源物の戸別収集について事務局においてデータを整理しておくこと。

すぐに移行はできないが、議論に値する課題である。

○内藤委員：

環境面（地球温暖化）から戸別収集においてトラックの増加による環境への負荷も考えられ、メリット、デメリットをきちっと整理して議論すべきである。紙の資源化については、事業者としても個別に収集するよりは、同じエリアの資源回収業者を使えばトラックの量を減らせるのではないか。

○紺野委員：

エリア内で環境負荷は大きく変わらない。むしろ遠方から盗みに来て遠方に引き上げていくことの方がCO2の発生を増やしている。資源物を盗んでいく者は交通マナーも悪く危険であり、社会的問題になっている。

○山谷会長：

八王子のケースでは、資源物の集積所に不法投棄が目立っていた。

西東京市は有料化に合わせて不法投棄対策としての戸別収集を導入している。集合住宅でもフック式に切り替える等、成果を上げている。

戸別収集は、不法投棄対策、不適正排出対策としても、効果があると考えられる。

予算的な課題をクリアするならば資源物の戸別収集について検討する。

(2) その他

西東京市独自のごみ組成分析調査結果を次回示すことを報告

次回開催日時：9月29日（木曜日）午後2時～